

学校・幼稚園・保育所で予防すべき感染症の解説：抜粋表（板橋区保健所予防対策課作成）

| 感染症名 | 潜伏期間 | 主な感染経路 | 登校（園）基準 |
|---------------|------------|---------------------|--|
| ポリオ | 3～21日 | 経口感染 | 急性期の症状が治癒後 |
| ジフテリア | 2～7日 | 飛沫感染 | 治癒後 |
| 重症急性呼吸器症候群 | 2～10日 | 飛沫感染 | 治癒後 |
| 鳥インフルエンザ | 1～10日 | 飛沫感染 | 治癒後 |
| インフルエンザ | 1～4日 | 飛沫感染 | 発熱した後5日、かつ解熱した後2日を経過するまで。幼児においては、発症した後5日、かつ解熱した後3日を経過するまで。 |
| 百日咳 | 5～21日 | 飛沫感染 | 特有な咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで。 |
| 麻疹 | 7～18日 | 空気感染 | 解熱後3日経過した後 |
| 流行性耳下腺炎 | 12～25日 | 飛沫感染 | 耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫張が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで。 |
| 風疹 | 14～23日 | 飛沫、母児感染 | 発疹の消失後 |
| 水痘 | 10～21日 | 空気感染 | すべての発疹が痂皮化した後 |
| 咽頭結膜熱 | 2～14日 | 飛沫感染 | 主要症状が消失してから2日経過後 |
| 結核 | 2年以内 | 空気感染 | 感染の恐れがないと認められた後 |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | 1～10日 | 飛沫感染 | 感染の恐れがないと認められた後 |
| コレラ | 数時間～5日 | 経口感染 | 治癒後 |
| 細菌性赤痢 | 1～7日 | 経口感染 | 治癒後 |
| 腸管出血性大腸菌 | 10時間～8日 | 経口感染 | 感染の恐れがないと認められた後 |
| 腸チフス、パラチフス | 3～60日 | 経口感染 | 治癒後 |
| 流行性角結膜炎 | 1～3日 | 飛沫感染 | 感染の恐れがないと認められた後 |
| 急性出血性結膜炎 | 1～3日 | 経口感染 | 感染の恐れがないと認められた後 |
| 溶連菌感染症 | 2～10日 | 飛沫感染 | 適切な抗菌薬による治療開始後24時間以降 |
| A型肝炎 | 15～50日 | 経口感染 | 肝機能が正常化した後 |
| B型肝炎 | 45～160日 | 血液、体液を介した感染 母子感染 | 急性肝炎の極期でない限り |
| 手足口病 | 3～6日 | 経口感染 | 全身状態が安定していれば |
| ヘルパンギーナ | 3～6日 | 経口感染 | 全身状態が安定していれば |
| 無菌性髄膜炎 | 3～6日 | 経口感染 | 全身状態が安定していれば |
| 伝染性紅斑 | 4～21日 | 飛沫感染 | 全身状態が安定していれば |
| ロタウィルス感染症 | 1～3日 | 経口感染 | 下痢、嘔吐が消失した後 |
| ノロウィルス感染症 | 12時間～48時間 | 経口感染 | 下痢、嘔吐が消失した後 |
| サルモネラ感染症 | 6～72時間 | 経口感染 | 下痢、嘔吐が消失した後 |
| カンピロバクター感染症 | 1～7日 | 経口感染 | 下痢、嘔吐が消失した後 |
| マイコプラズマ感染症 | 1～4週間 | 飛沫感染 | 症状が安定した後 |
| インフルエンザ菌b型感染症 | 不明 | 飛沫感染 | 症状が安定した後 |
| 肺炎球菌感染症 | 1～3日 | 飛沫感染 | 症状が安定した後 |
| RSウィルス感染症 | 2～8日 | 接触感染 | 症状が安定した後 |
| EBウィルス感染症 | 30～50日 | 唾液を介した感染 | 症状が安定した後 |
| サイトメガロウィルス感染症 | 不明 | 唾液を介した感染 母子感染 | 症状が安定した後 |
| 単純ヘルペス感染症 | 2日～2週間 | 接触感染 | 歯肉口内炎のみであればマスクをして可 |
| 日本脳炎 | 2～15日 | 豚、蚊を介した感染 | 症状が安定した後 |
| 突発性発疹 | 9～10日 | 接触者の唾液を介した感染 | 症状が安定した後 |
| アタマジラミ | 孵化まで10～14日 | 接触感染 | 制限は無し |
| 伝染性軟属腫 | 2週～6月 | 接触感染 | 制限は無し |
| 伝染性膿痂疹 | 2～10日 | 接触感染 | 制限は無し |
| 蟻虫症 | 1～2か月かそれ以上 | 経口感染 | 制限は無し |
| ヒトパピローマウィルス | 3か月～数年 | 接触感染、性感染 | 制限は無し |